

# 全体構想・分野別方針について

---

2022年10月7日

安芸高田市 企画部 政策企画課

## 1. 上位・関連計画における方針

- 広島圏域都市計画マスタープラン ..... 2頁
- 安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン..... 5頁
- デジタル田園都市国家構想.....6頁
- 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性.....7頁
- まとめ.....8頁

## 2. まちづくりの基本的方針

- 理念・目標 ..... 9頁
- 将来都市構造 .....11頁

## 3. 分野別方針

- 土地利用 .....12頁
- 都市施設 .....13頁
- 交通 ..... 14頁
- 都市環境・景観 ..... 15頁
- 防災 ..... 16頁

# 1. 上位・関連計画における方針（広島圏域都市計画マスタープラン）

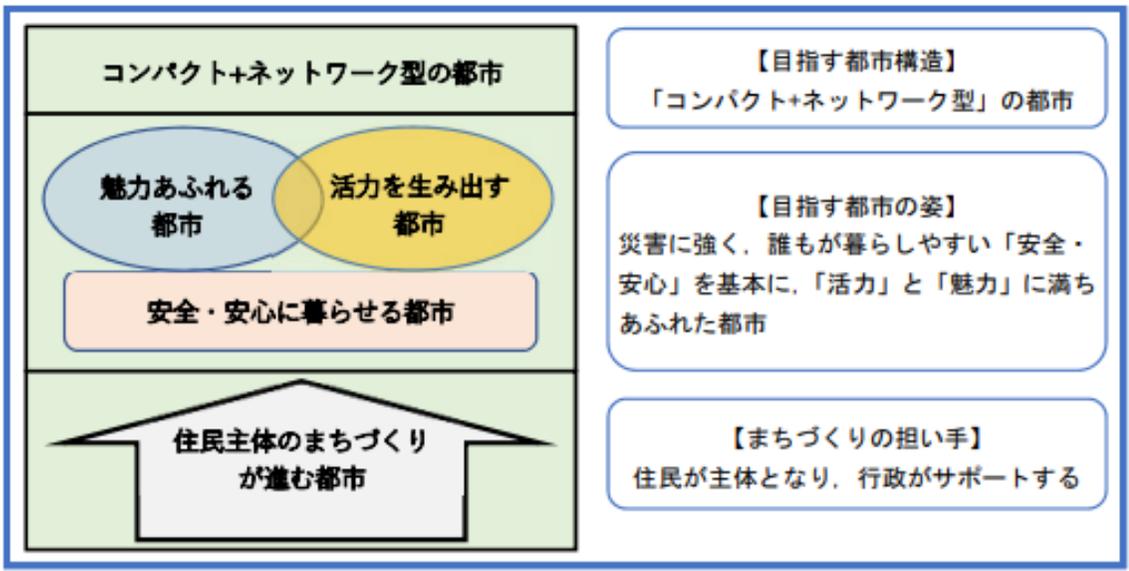
- 広島圏域都市計画マスタープランでは、都市計画区域を一体の都市として総合的に整備、開発及び保全することを目的として、基本的な方針が示されている。
- 目指す都市構造として、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、公共交通によりこれらの生活利便施設にアクセスできる「コンパクト+ネットワーク型」の都市を再構築が掲げられている。
- また、目指す都市の姿として、災害に強く、誰もが暮らしやすい「安全・安心」を基本に、様々な人材や企業をひきつける「活力」と「魅力」に満ちあふれた都市が掲げられている。
- さらに、そのまちづくりに向けて住民が主体となり、行政がサポートしながら協働で作りに上げていくことが定められている。

## ■ 将来像

### 中四国地方の発展を牽引する “中枢圏域ひろしま”

- 1 コンパクト+ネットワーク型の都市
- 2 活力を生み出す都市
- 3 魅力あふれる都市
- 4 安全・安心に暮らせる都市
- 5 住民主体のまちづくりが進む都市

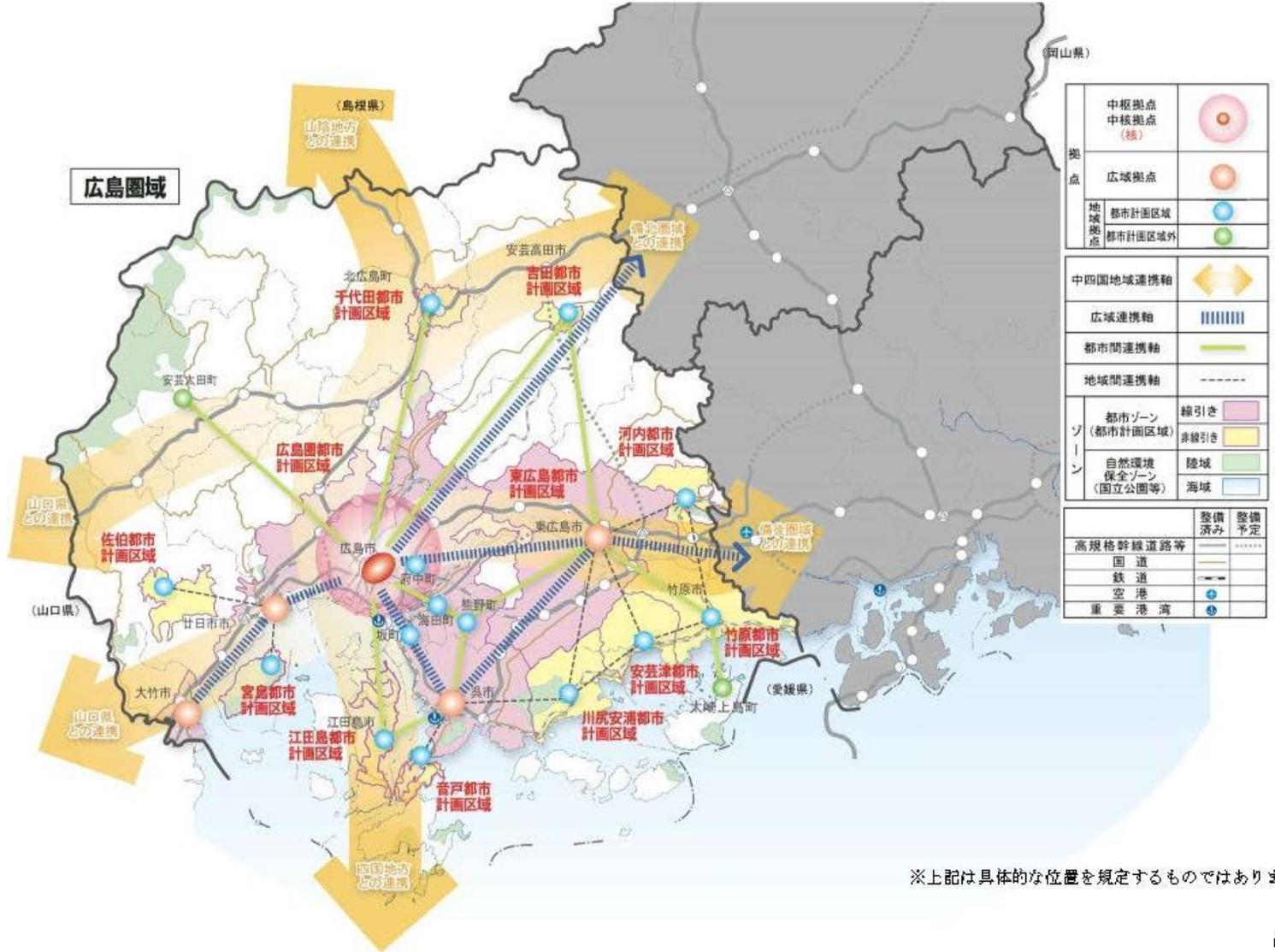
<将来像のイメージ>



# 1. 上位・関連計画における方針（広島圏域都市計画マスタープラン）

○ 将来都市構造図において、吉田都市計画区域が地域拠点に位置づけられており、広島市及び東広島市と都市間連携軸が結ばれている。

## ■ 将来都市構造図



## ■ 拠点の区分

|      |   |
|------|---|
| 中核拠点 | 県外をもサービス圏域とし、広域的影響のある、高次都市機能の集積・強化により中四国地方全体の発展にあたって中心となる拠点 |
| 広域拠点 | 都市機能及び一部の高次都市機能の集積を図り、中核拠点の都市機能を分担する拠点                      |
| 地域拠点 | 都市機能の集積を推進し、中核拠点、広域拠点による都市機能の補完を受けつつも、一定程度の独立性を持つ拠点         |

## ■ 軸の区分

|          |   |
|----------|---|
| 中四国地域連携軸 | 圏域外との連携を強化する軸として、広域の交流連携を推進する方向を示す              |
| 広域連携軸    | 高次な都市機能の強化を推進する軸であり、グローバルな都市機能を有する都市を相互の連携により実現 |
| 都市間連携軸   | 広域拠点との連携による個々の都市の発展を促す                          |
| 地域間連携軸   | 広域拠点との連携による個々の都市の発展を促す                          |

# 1. 上位・関連計画における方針（広島圏域都市計画マスタープラン）

○ 吉田都市計画区域の都市計画に関する方針を以下に示す。

## ■ 吉田都市計画区域の方針

| 項目               | 都市計画の決定の方針  |
|------------------|---|
| 土地利用             | <ul style="list-style-type: none"><li>市役所周辺などの商業・業務機能の一定の集積があり、かつ地域公共交通によるアクセスが可能である地域において、日常の購買や、医療・福祉需要に対応した<b>生活サービス機能の充実</b>など、利便性の向上を図る</li><li>高田工業団地や日南山工業団地などの既存の工業集積地は、今後とも本区域の<b>製造業等の集積地として生産活動の利便性の維持・増進</b>を図る</li><li>用途地域が指定されている区域において、災害リスクの高い区域が含まれる場合は、必要に応じて、用途地域の見直しや地区計画の活用による土地利用規制の導入を推進する</li><li>用途白地地域においては、必要に応じて、特定用途制限地域の指定や建蔽率・容積率の最高限度の引き下げ等により、無秩序な開発を抑制する</li></ul> |
| 都市施設の整備          | <ul style="list-style-type: none"><li>市街地の利便性や快適性の向上を図るため、<b>老朽化する既存インフラの更新と維持</b>に努めつつ、（主）吉田豊栄線などの<b>幹線道路や公共下水道の整備を推進</b>する</li></ul>  |
| 市街化開発事業          | <ul style="list-style-type: none"><li>既存ストックが集積する中心市街地や都市基盤整備が不十分な既成市街地等において、良好な市街地形成による拠点性の向上を図るため、<b>合理的な都市機能の更新</b>や<b>効率的な都市基盤整備</b>を目的とした、市街地開発事業の活用を必要に応じて検討する</li></ul>  |
| 安全・安心な暮らし        | <ul style="list-style-type: none"><li>防災工事や住民の避難体制の構築などハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を推進する。また、立地適正化計画の活用などにより、<b>災害リスクの高い区域の土地利用規制</b>や<b>災害リスクの低い区域への居住誘導</b>を図る</li></ul>  |
| 自然的環境の整備<br>又は保全 | <ul style="list-style-type: none"><li>史跡毛利氏城跡（郡山城跡や多治比猿掛城跡）とその周辺の森林や河川等の自然環境は、自然景観を生み出すための景観要素として、適切な保全を図る</li></ul>  |
| 歴史・景観への配慮        | <ul style="list-style-type: none"><li>史跡毛利氏城跡（郡山城跡や多治比猿掛城跡）などに代表される多様な歴史・文化資源の保全を図る</li></ul>   |

# 1. 上位・関連計画における方針（安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン）

- 安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョンでは、令和2年度以降の10年間において、目指す姿とその実現に向けた取組の方向性が示されている。
- 目指す姿として、「安心」「誇り」「挑戦」のキーワードが掲げられている。
- また、将来像の実現に向けた基本的な考え方として、広島県の強みである「密過ぎない都市」と「美しく自然豊かな中山間地域」、「都市と自然の近接性」を最大限生かし、「適散・適集」のフロントランナーを目指すことが定められている。
- 「DXの推進」、「ひろしまブランドの強化」、「人材育成」の3つの視点から施策に取り組むことを定めている。

## ■ 目指す姿

**県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」しています**  
～仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現～

## ■ 目指す姿の実現に向けた基本的な考え方

- ・ 県民の挑戦を後押し
- ・ 特性を生かした適散・適集な地域づくり

## ■ 施策を貫く3つの視点

経済成長と人口減少社会の課題解消を目指す「**DXの推進**」

「**ひろしまブランドの強化**」と国内外からの共感の獲得

生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高める「**人材育成**」



# 1. 上位・関連計画における方針（デジタル田園都市国家構想）

- 内閣府 地方創生推進室 デジタル庁にて、デジタル田園都市国家構想の検討が進められている。
- 地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市」を構築するとともに、「心ゆたかな暮らし」（Well-being）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）を実現することを目指している。

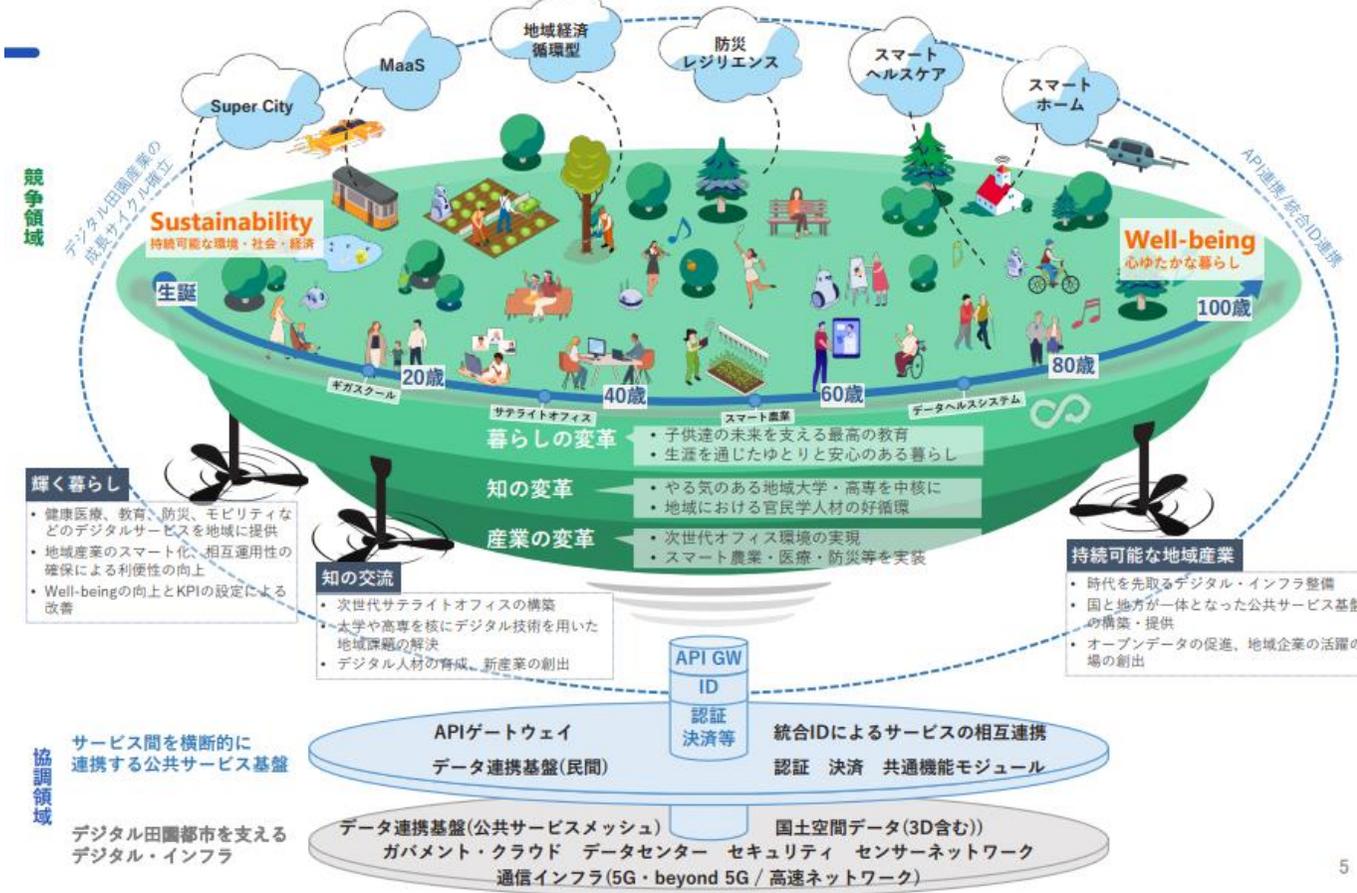
■ 目指すべきもの

**地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を**

■ 実現に向けた取り組み

- 時代を先取るデジタル基盤整備
- 先端的サービスの普遍的提供
- デジタルの恩恵を地域が享受するための制度整備
- 地域産業の高度化
- 官民学一体となった事業環境の構築
- 地域のWell-beingの向上と持続可能性の確保
- 継続的発展のための枠組み

デジタル田園都市国家構想の取組イメージ（デジタルからのアプローチ）



出典：第一回デジタル田園都市国家構想実現会議資料

# 1. 上位・関連計画における方針（新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性）

- 国土交通省では、新型コロナ危機を踏まえ、今後の都市のあり方にどのような変化が起こるのか、今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため、様々な分野の有識者、合計61名に個別ヒアリングを実施。
- ヒアリングの結果を踏まえ、今後の都市政策の方向性を検討した。

## ■ 今後の都市政策の方向性

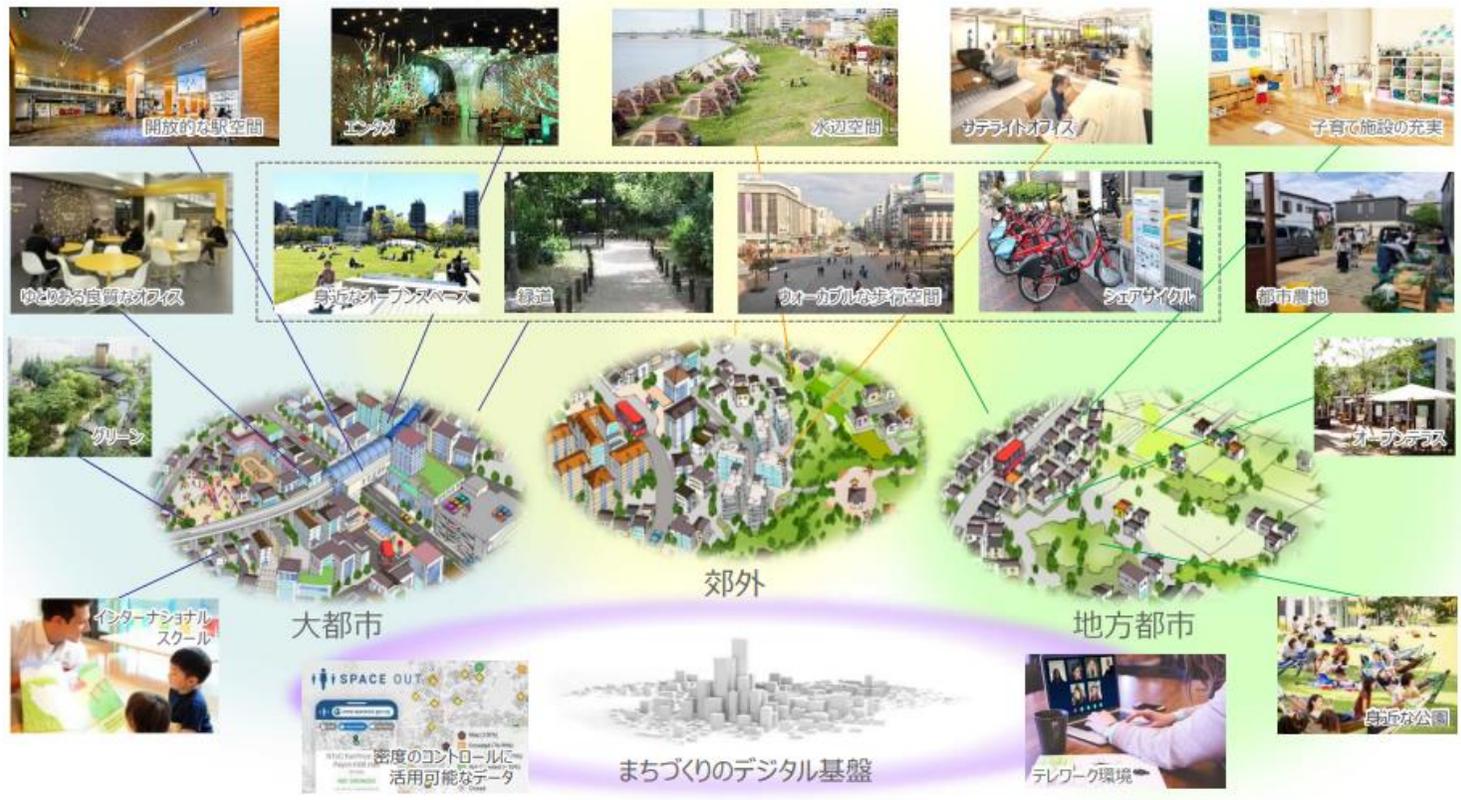
**都市の持つ集積のメリットは活かして、国際競争力強化やコンパクトシティなどは引き続き進めつつ、「三つの密」の回避など「ニューノーマル」に対応したまちづくりが必要**

職住近接のニーズに対応したまちづくりの推進

まちづくりと一体となった総合的な交通戦略の推進

緑やオープンスペースの柔軟な活用

リアルタイムデータ等の活用による、過密を避けるような人の行動の誘導



# 2. まちづくりの基本的方針（理念・目標）

○これまで検討してきた本市の都市計画における解決すべき課題や、上位・関連計画でのまちづくりの方向性を踏まえ、目指すべきまちの方向性として、以下の4項目が考えられる。（1/2）

|          |           | 解決すべき課題  |   |
|----------|-----------|--|---|
| 安芸高田市の現状 | ①人口       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少により、一定の人口を必要とする<b>生活サービス施設の維持</b>や<b>生活利便性の確保</b>が困難となる可能性があり、対策が必要である。</li> <li>● 特に高齢者は日常生活における移動が困難となることが予想され、<b>高齢者が安全・安心・快適に生活できるような居住環境確保、アクセス環境の整備</b>が必要となる。</li> <li>● また、<b>産業の担い手不足</b>が見込まれ、<b>活力の創出</b>に向けた対策が求められる。</li> </ul>                                      |   |
|          | ②土地利用     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物用地の点在による<b>都市のスプロール化</b>が懸念され、その対策が必要である。</li> <li>● 現在<b>放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策</b>が必要である。</li> </ul>   |   |
|          | ③公共交通     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により<b>移動困難者が増加</b>する可能性があり、<b>地域住民の足を引き続きカバー</b>し続けることが求められる。</li> <li>● お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は赤字となっていることから、利用者のニーズに対応しつつ、<b>公共交通の効率的な運用</b>の検討が必要である。</li> </ul>  |   |
|          | ④産業       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 卸売・小売業といった一定の人口を必要とする生活サービス施設が縮小し、日常的な買い物が困難になる等の状況が見込まれることから、<b>ニーズに応じた商業機能の強化</b>が求められる。</li> <li>● 観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた<b>観光業の活性化</b>が求められる。</li> <li>● また、観光客が本市に訪れやすく、市内の観光地を巡りやすいような<b>公共交通の整備</b>が求められる。</li> <li>● <b>産業の活性化</b>を推進し、生活水準の維持や<b>雇用の創出</b>を図る必要がある。</li> </ul> |   |
|          | ⑤都市施設     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 財政の悪化により、まちの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、<b>都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化</b>等を行うことで、公共施設に対する<b>維持管理費を削減</b>する必要がある。</li> <li>● 都市施設の<b>老朽化対策及び耐震化の推進</b>が必要である。</li> </ul>   |   |
|          | ⑥防災       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保</b>に配慮する必要がある。</li> <li>● インフラの耐震化・長寿命化、防災拠点の整備等、<b>災害に強い都市基盤の整備</b>の推進が求められる。</li> <li>● 災害リスクの低い区域への居住の誘導や、災害ハザードマップ等に基づきリスクの周知・啓発等の<b>ソフト対策の推進</b>も必要である。</li> </ul>   |   |
|          | ⑦都市構造     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>施設の適正配置</b>により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。</li> <li>● 特に、高齢化の進行に伴い、日常移動が困難な高齢者が増えることが予想されるため、<b>高齢者の都市機能へのアクセス確保</b>が必要である。</li> </ul>  |   |
|          | 市民アンケート調査 | ⑧日常生活  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民の生活行動パターンを踏まえ、<b>都市機能の配置の適正化</b>が必要である。</li> <li>● 過度な車依存からの脱却を図り、高齢等の理由で運転免許を返納した後も日常生活を快適に過ごせるよう、<b>都市施設や公共交通網の整備</b>が必要である。</li> <li>● コロナ禍による住民の外出頻度低下に伴い、<b>地域コミュニティの弱体化</b>等が懸念される。</li> </ul> |
|          |           | ⑨住民意向  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在安芸高田市内に居住している住民が、<b>将来にわたって住み続けたいと思える都市環境の整備</b>が必要である。</li> <li>● 特に吉田町を中心に、<b>災害リスクへの対応を強化</b>すること等による、<b>安心して暮らせるまちづくり</b>が求められる。</li> </ul>  |

## 目指すべきまちの方向性

**コンパクトな都市の構築**  
 居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。  
 （対応項目：①②④⑤⑦⑧）

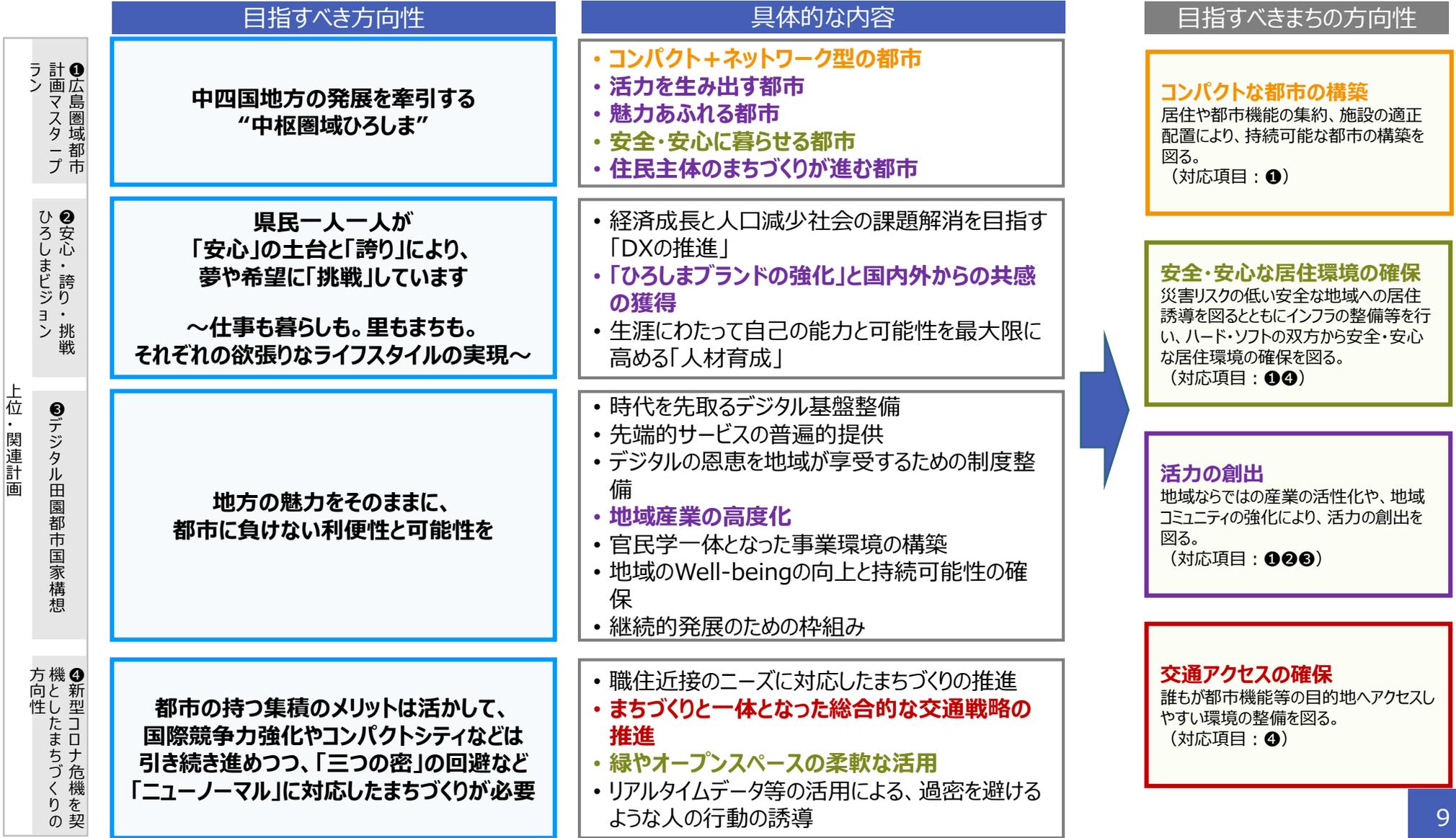
**安全・安心な居住環境の確保**  
 災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。  
 （対応項目：①②⑤⑥⑨）

**活力の創出**  
 地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。  
 （対応項目：①④⑧⑨）

**交通アクセスの確保**  
 誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。  
 （対応項目：①③④⑦⑧）

# 2. まちづくりの基本的方針（理念・目標）

○これまで検討してきた本市の都市計画における解決すべき課題や、上位・関連計画でのまちづくりの方向性を踏まえ、目指すべきまちの方向性として、以下の4項目が考えられる。（2/2）



## 2. まちづくりの基本的方針（理念・目標）

○ 前頁までで整理した内容をそれぞれ関連する項目でまとめ、まちづくりの基本理念及び基本目標を検討した。

### ■まちづくりの基本理念

## 未来へ 続くまち 安芸高田

### ■基本目標

居住や施設が集約された  
持続可能なまちづくり

居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。

だれもが安心して暮らせる  
リスクに強いまちづくり

災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。

地域資源を活かした  
活力あるまちづくり

地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。

目的地へアクセスしやすい  
やさしいまちづくり

誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。

### ■目指すべき まちの方向性

コンパクトな  
都市の構築

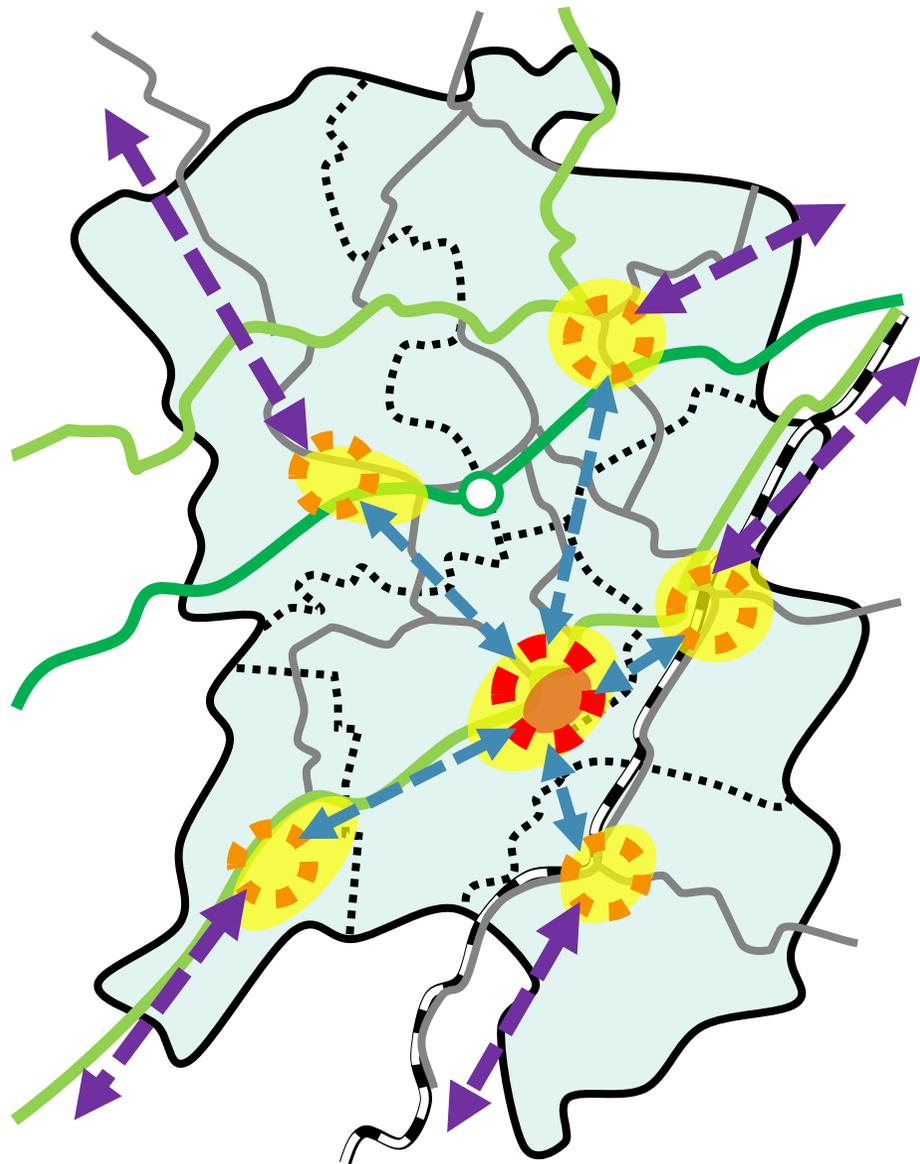
安全・安心な  
居住環境の確保

活力の創出

交通アクセスの確保

## 2. まちづくりの基本的方針（将来都市構造）

○まちづくりの基本理念や基本目標を踏まえ、今後のまちづくり方針の検討にあたって基礎となる将来都市構造については、以下の通り定める。（1/2）



### 拠点・軸



#### 中心拠点

本市全体として必要な拠点機能を担うエリアとして、市全体を集客圏域として維持すべき都市機能（総合病院、大型スーパー、広域行政機能等）の集約を図る。  
また、広島市や三次市といった広域都市圏を集客圏域とするような都市機能を市民が利用できるよう、市内外の交通結節機能の充実を図る。



#### 地域拠点

地域住民の日常生活に必要な施設等の集約・維持を目指すエリアとして、支所機能や小規模スーパー、診療所、コミュニティセンター等の集約を図る。  
特に、自家用車で広域移動やデジタル技術の活用が難しい社会的弱者が日常生活に必要な都市機能を楽しむことができるよう、環境を整備する。



#### 拠点間連携軸

市内の中心拠点と地域拠点を結び、拠点間のつながりを特に充実させる連携軸として、中心拠点へのアクセス環境を充実させる。



#### 広域連携軸

周辺市町との連携により個々の都市の発展を促す軸として、幹線道路や公共交通網の維持・充実を図る。

### 土地利用（ゾーン）



賑わい創出ゾーン



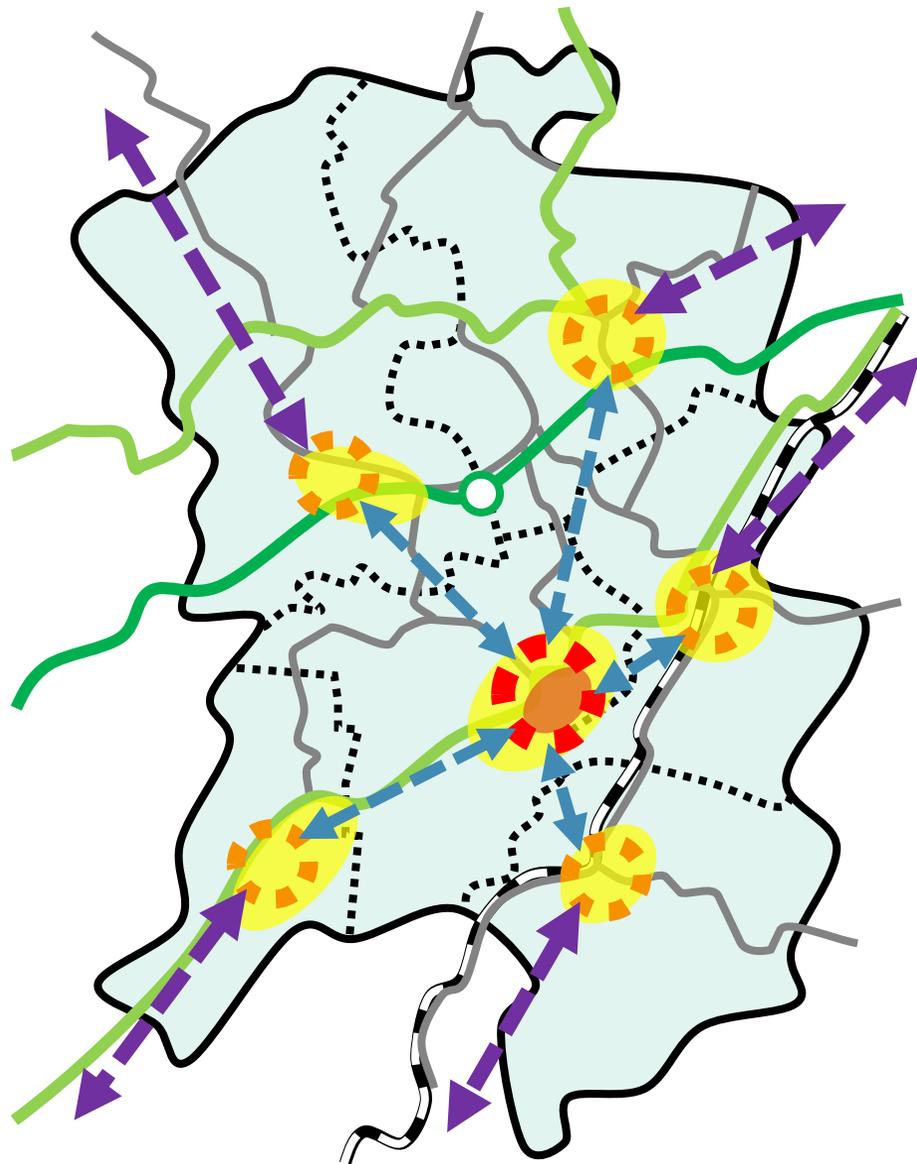
住環境保全ゾーン



自然共生ゾーン

## 2. まちづくりの基本的方針（将来都市構造）

○まちづくりの基本理念や基本目標を踏まえ、今後のまちづくり方針の検討にあたって基礎となる将来都市構造については、以下の通り定める。（2/2）



### 拠点・軸



### 土地利用（ゾーン）

- 賑わい創出ゾーン**  
商業・文化・行政施設等を充実させ、  
高密な市街地の形成を図るゾーン
- 住環境保全ゾーン**  
戸建て住宅を中心に維持・充実を図り、  
低密な市街地の形成を図るゾーン
- 自然共生ゾーン**  
集落・農用地・山林等が共存し、  
豊かな自然環境の保全を図るゾーン

# 3. 分野別方針（土地利用）

○土地利用については、将来都市構造で定めた拠点・軸やゾーンを踏まえて拠点間連携を行い、既存ストックの有効活用による賑わいのあるまちづくりを推進していく。

## ■土地利用に関する現状・問題点

- 市域のほとんどを森林が占めており、鉄道、国道、県道の周辺に田、建物用地が広がっている。
- 都市計画区域は吉田町の一部にのみ指定されており、区域内に設定されている用途地域の50.9%を第一種住居地域が占めている。
- 都市計画区域外や6町の中心部以外にも、建物用地が点在している。
- 空き家数・空き家率ともに増加傾向にある。

## ■土地利用に関する本市の取組

- 第2期安芸高田市総合計画のリーディングプロジェクトとして、「若者の定住促進強化プロジェクト」を推進しており、特に土地利用に関する施策として、働く環境の整備や住宅の整備・供給支援等を行っている。
- 特に、空き家の活用については、空き家情報バンクを市が開設し、需要と供給のマッチングを推進している。

## ■土地利用に関する取組方針

### 既存ストックの有効活用による賑わいのあるまちづくり

#### 賑わい創出ゾーン

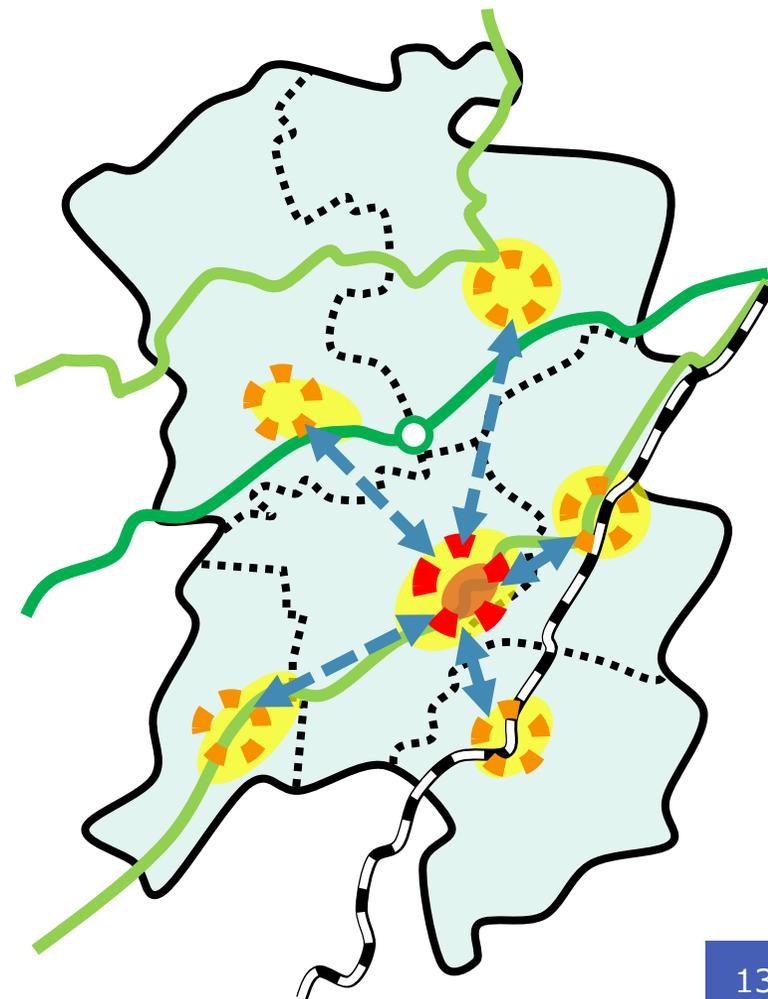
- 商業・文化・行政施設等の都市機能の充実による、高密な市街地の形成
- まちの顔としての賑わい創出

#### 住環境保全ゾーン

- 戸建て住宅を中心とした居住環境の維持・充実による、低密な市街地の形成
- 人口規模や地域特性に応じた市街地規模の適正化

#### 自然共生ゾーン

- 集落・農用地・山林等の共存による、豊かな自然環境の保全
- 集落コミュニティの維持・活性化



# 3. 分野別方針（都市施設）

○都市施設については、合理化と長寿命化の推進に加え、まちの活性化に向けた運用を進めていく。

## ■都市施設に関する現状・問題点

- 市民1人当たりのインフラの延長、公共施設の延床面積が大きく、今後人口が減少することで、市民1人当たりが負担すべき維持管理費の増大が懸念される。
- 既存の施設を耐用年数まで使用し、すべての施設を同規模で更新すると仮定した場合、費用が大幅に不足する。
- 橋梁等のインフラ構築物の中には、建設後50年を経過しているものもあり、今後急速に老朽化が進行していくことが懸念される。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。

## ■都市施設に関する本市の取組

- 平成22年度に橋梁長寿命化修繕計画、令和2年度にトンネル長寿命化修繕計画を策定。
- 平成27年に公共施設等総合管理計画を策定。個別計画にて、各施設の再編を検討している。
- 平成23年に学校規模適正化推進計画、保育所規模適正化計画を策定。

## ■都市施設に関する取組方針

### 持続可能な都市施設の運用

#### 都市施設の合理化と長寿命化の推進

- 公共施設やインフラの長寿命化、バリアフリー化
- 学校、保育所をはじめとする公共施設の再編、配置の適正化
- 将来的に維持可能なサービス水準を想定した公共施設の利用促進
- 日常生活に必要な都市機能を拠点に維持するための行政支援
- 民間活力の導入による効率的な施設運用
- 空き屋等の既存ストックの利活用



吉田小学校 出典：吉田小学校HP

#### まちの活性化に向けた都市施設の運用

- 道の駅やスポーツ施設など、にぎわい創出や観光振興に資する都市施設の整備
- 人権福祉センターや基幹集会所など、地域コミュニティの場となる都市施設の利用促進
- 観光振興や地域コミュニティの活性化等に向けた都市公園の活用
- 産業振興・雇用促進に資する施設の整備



道の駅三矢の里あきたかた 出典：安芸高田市HP

# 3. 分野別方針（交通）

○交通については、日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築や、市内外の交流を促進する交通ネットワークの強化に向けた取組を行う。

## ■ 交通に関する現状・問題点

### 公共交通について

- 鉄道や路線バス以外に、自家用有償旅客運送、デマンド型区域乗合を含めた様々な手段で地域公共交通を分担している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の足を引き続きカバーし続けることが求められる。

### 道路について

- 大阪府と山口県を結ぶ中国自動車道が横断しており、美土里町に高田ICがある。
- 大竹市と三次市を結ぶ国道433号が美土里町、高宮町を通過している。
- 広島市と島根県松江市を結ぶ国道54号が八千代町、吉田町、甲田町を通過している。

## ■ 交通に関する本市の取組

- 平成30年に地域公共交通網形成計画を作成し、「みんなが使いやすい公共交通があるまち あきたかた」を実現するための基本方針を定めている。
- 広島県により、東広島高田道路（向原～吉田間）の整備が進められている。

## ■ 交通に関する取組方針

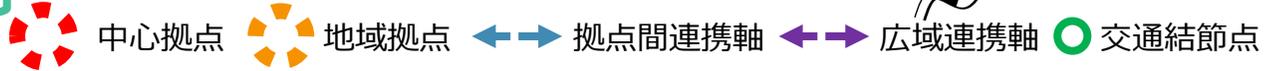
### 快適な生活を支える交通ネットワークの構築

#### 日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築

- 地域拠点・中心拠点へのアクセスの確保
- 中心・地域拠点間の往来がしやすい公共交通サービスの構築
- 交通弱者や公共交通空白地にも対応した柔軟性のある公共交通サービスの提供
- 効率的な事業運営

#### 市内外の交流を促進する交通ネットワークの強化

- 広域移動を担う幹線道路網の整備・充実
- 地域内道路の整備、都市活動を支える道路の長寿命化
- 交通結節点の機能維持・強化
- 拠点へのアクセス改善



# 3. 分野別方針（都市環境・景観）

○都市環境・景観については、コンパクトなまちづくりによる生活利便性の向上や、里山や農村をはじめとした良質な自然環境の保全・維持、伝統文化の保存・継承、トップスポーツの維持等による観光振興を推進していく。

## ■都市環境・景観に関する現状・問題点

- 市全体で約3割の住民が居住環境に不満があり、公共施設、医療施設、商業施設等の都市機能の充実が求められている。
- 自宅周辺に欠かせない施設として、約9割の住民がスーパー・コンビニ等を挙げているが、実情としては、約5割が居住する町外または安芸高田市外で日常の買い物をしている。また、買回り品の買い物は安芸高田市外で行う方が5割以上である。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度が低下している。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

## ■都市環境・景観に関する本市の取組

- 平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、神楽や毛利元就をはじめとする歴史・文化や豊かな自然、農産物、スポーツを活用した事業の推進を定めている。
- また、第2次安芸高田市環境基本計画では、環境保全に関する基本的な方針を示している。

## ■都市環境・景観に関する取組方針

### 「住み続けたい」「訪れたい」と思える環境の形成

#### コンパクトなまちづくりによる生活利便性の向上

- 都市機能の適正配置、ニーズに応じた商業機能の強化
- 日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築
- 高齢者や障がい者をはじめとした社会的弱者を含む、誰もが快適に活動できる生活基盤の整備

#### 良質な自然環境の保全・維持

- 森林や河川等の維持・管理
- 省エネルギー機器や低公害設備、再生可能エネルギーの導入推進
- ごみの減量化、資源ごみの再生利用の推進
- 生産性の高い農業経営環境の整備及び担い手の確保

#### 地域資源を活かした観光振興

- 伝統文化の保存・継承
- 里山をはじめとした自然と触れ合う場の整備
- トップスポーツの振興
- 地域資源を活かした観光商品・プログラム等の開発推進



ひろしま安芸高田神楽 出典：安芸高田市HP

# 3. 分野別方針（防災）

○防災については、安全・安心して暮らせるための、災害に強い都市基盤整備や、ソフト対策の充実を図る。

## ■ 防災に関する現状・問題点

- 各地に浸水想定区域が広がっており、特に吉田町及び甲田町では広範囲が浸水想定区域となっている。高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
- 土砂災害警戒区域が市内各地に点在しており、特にJR沿線において広範囲に広がっている。土砂災害警戒区域及び特別警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。
- 浸水想定区域・土砂災害警戒区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

## ■ 防災に関する本市の取組

- 安芸高田市地域防災計画を毎年策定・改定し、災害予防、災害応急対策、災害復旧についての計画を定めている。
- 特に、震災対策、南海トラフ地震対策については、それぞれ「震災対策編」「南海トラフ地震防災対策計画」を定めているほか、水害対策については安芸高田市水防計画を策定し、各事象に対する具体的な対応方針について規定している。

## ■ 防災に関する取組方針

### だれもが安全・安心に暮らせる都市環境の維持

#### 災害に強い都市基盤の整備

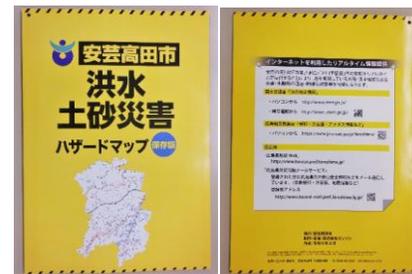
- 密集住宅市街地等の防災性向上
- 大規模盛土造成地の耐震化
- 指定避難所の防災拠点整備
- インフラ設備の耐震化・長寿命化の推進



防災拠点を持つ道の駅 出典：国土交通省HP

#### 安心できる暮らしのためのソフト対策の充実

- 浸水、土砂災害等の災害リスクの低い区域への居住の誘導
- 災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発
- 国や県、周辺市町村等との連携による災害対応体制の拡充
- 自主防災組織や避難の呼びかけ体制の強化
- 避難所におけるプライバシーの確保への配慮等を通じた避難行動の促進
- 防災訓練の充実



洪水土砂災害ハザードマップ

# 3. 分野別方針（地域活性化）

○地域活性化については、人と人のつながりを基軸としたまちづくりの実現に向け、地域コミュニティ活性化や雇用促進に関する取組を推進する。

## ■ 地域活性化に関する現状・問題点

- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性がある。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

## ■ 地域活性化に関する本市の取組

- 旧来のコミュニティが図られてきた大字単位や小学校区単位を主な範囲として、市内に32の地域振興組織と6つの連合組織が設置されており、住民と行政の対話を基礎とした協働のまちづくりを推進している。
- また、平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、「担い手づくり」「産業づくり」「ファンづくり」を3つの基本戦略とし、市民とともに地域活性化や産業振興を図ることとしている。

## ■ 地域活性化に関する取組方針

### 人と人のつながりを基軸としたまちづくりの推進

#### 地域コミュニティの活性化

- コミュニティ形成の場としての中心拠点・地域拠点の活用
- 地域づくりに関する情報提供や懇談会等を通じた、地域振興組織による地域づくりに対する行政支援の充実
- 集会施設の整備
- 地域振興組織と行政の協働による地域づくり計画の策定
- 地域おこし協力隊等の外部人材の受入
- UIターンや二拠点居住の希望者への情報提供
- 男女共同参画・多文化交流の推進



地域振興組織の区域図

#### 市内で暮らしていくための雇用の場の確保

- 工業団地や中心拠点・地域拠点をはじめとした企業誘致
- 遊休農地の低減や新規就農支援、DX活用等による効率的農地利用の推進
- サテライトオフィスの整備・活用
- 商店・企業の活性化や地域産業の育成支援
- スタートアップや地域発のイノベーション創出に向けた支援